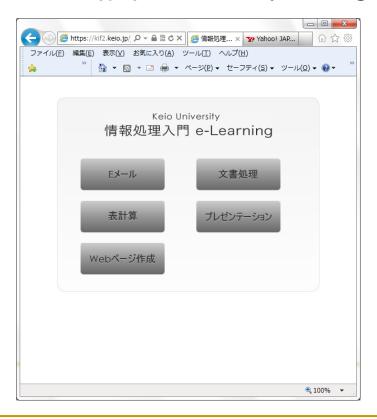
## 情報学基礎 10章補足資料

#### 表計算ソフトの使い方

- 詳細はe-Learningシステムで学習すること
  - https://kif2.keio.jp/jukunai/hiyoshi/gakuji/index.html

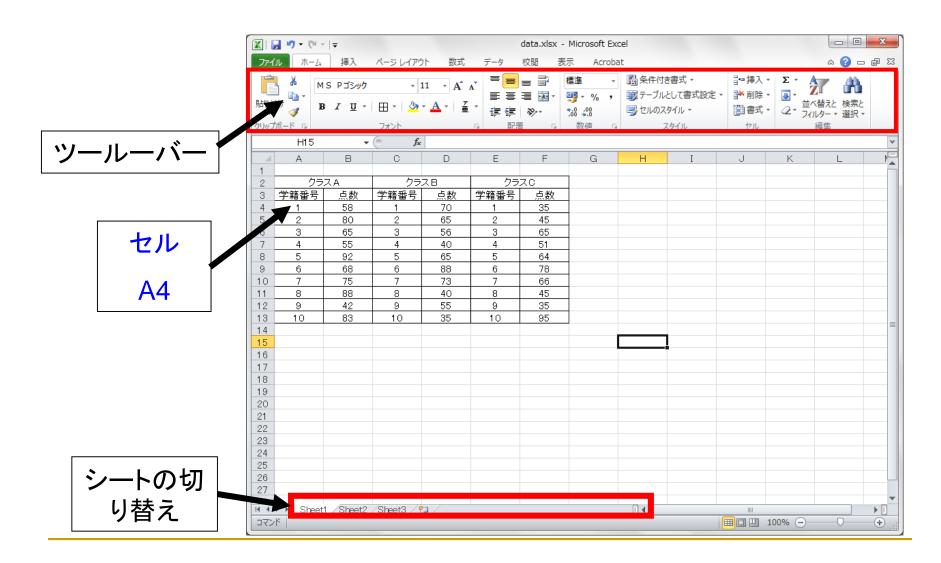


#### 表計算

- ■表計算とは
  - □ 数値データの集計および分析
  - □ 表形式(シートもしくはスプレッドシート)
  - □ セル中に数値, 数式を入力
  - □ さまざまな関数, グラフ機能が用意されている
  - □ プログラミングも可能(自分で使いたい機能を自由に作成できる)

# 表計算の基本操作

#### MS-Excel 2010 の画面



#### ツールボタン(1)

#### ホーム



#### 挿入



#### ページレイアウト



### ツールボタン(2)

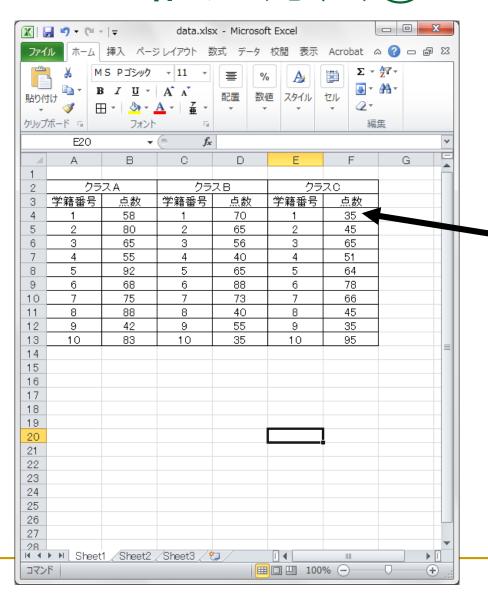
#### 数式



#### データ



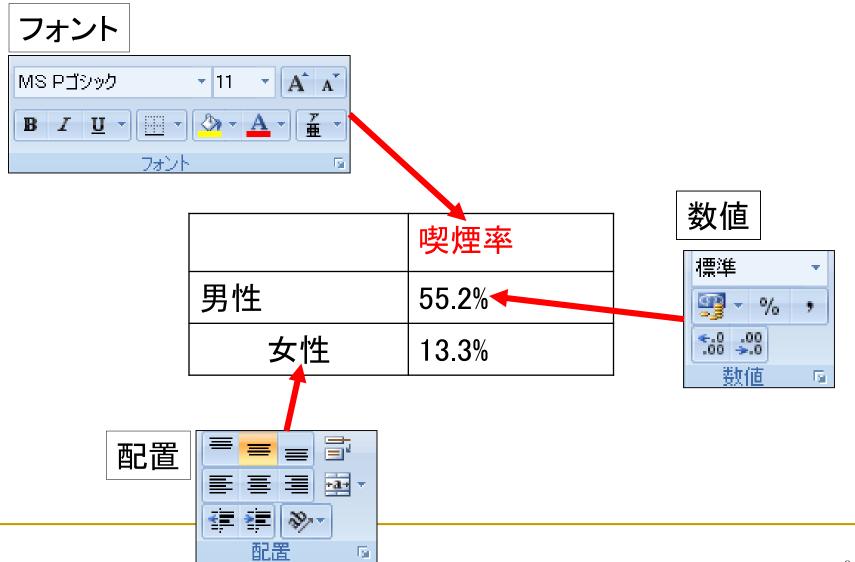
#### セルの記述方法(1)



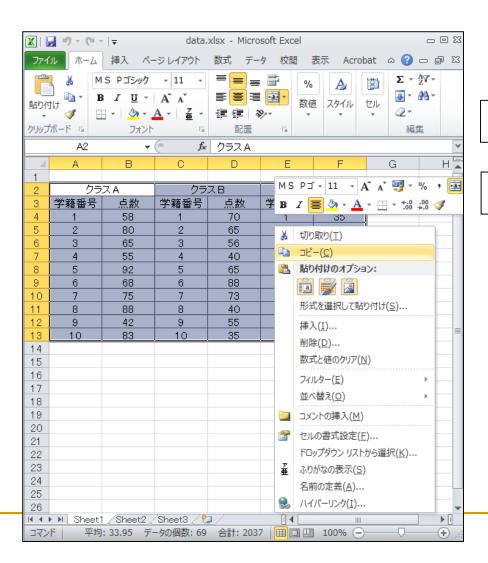
数值

半角文字で記述

### セルの記述方法②



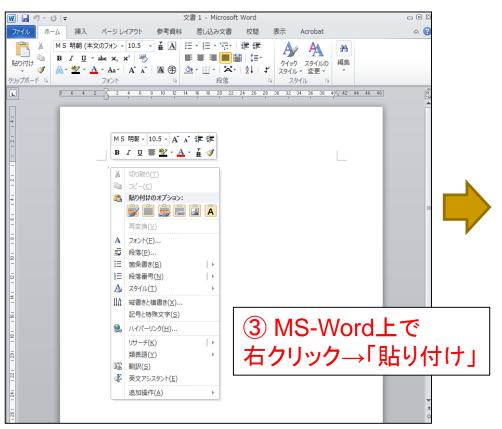
#### MS-Wordへのコピー(1)

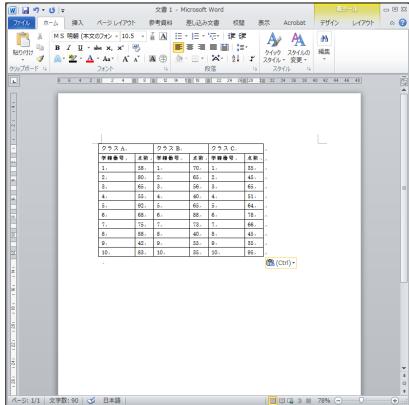


① コピーしたいセル(表)を選択

② 右クリック→「コピー」

#### MS-Wordへのコピー②

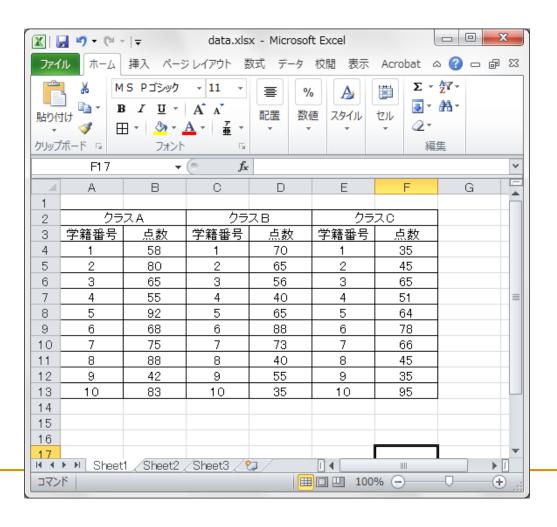




# 記述統計量の求め方

#### 平均値(相加平均)の求め方①

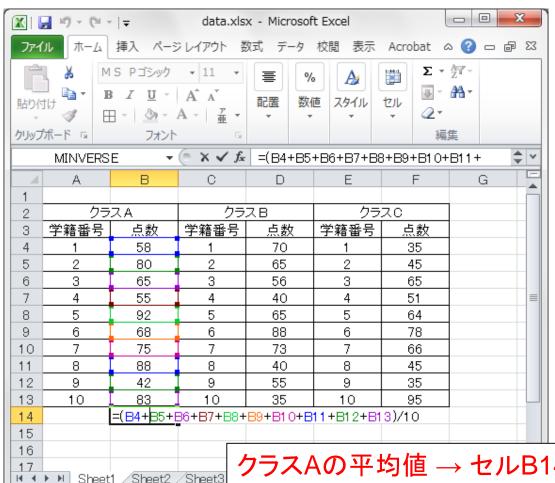
■ クラスAの点数の平均値を求める



#### 相加平均

$$\overline{x} = \frac{\sum_{i=1}^{n} x_i}{n}$$

### 平均値(相加平均)の求め方②



編集

$$\bar{x} = \frac{\sum_{i=1}^{n} x_i}{n}$$

クラスAの平均値 → セルB14に結果を示す場合 =(B4+B5+B6+B7+B8+B9+B10+B11+B12+B13)/10

#### 式の書き方(1)

#### =F2+F3-E3

- 結果を求めたいセルに記述
- ■「=」から開始する
  - F2 と F3 の値を加算
  - その値からE3の値を減算
- 式中のセルの参照には3つ方法がある
  - 相対参照
  - 絶対参照
  - 複合参照

### 式の書き方②(四則演算)

$$=F2+F3-E3$$

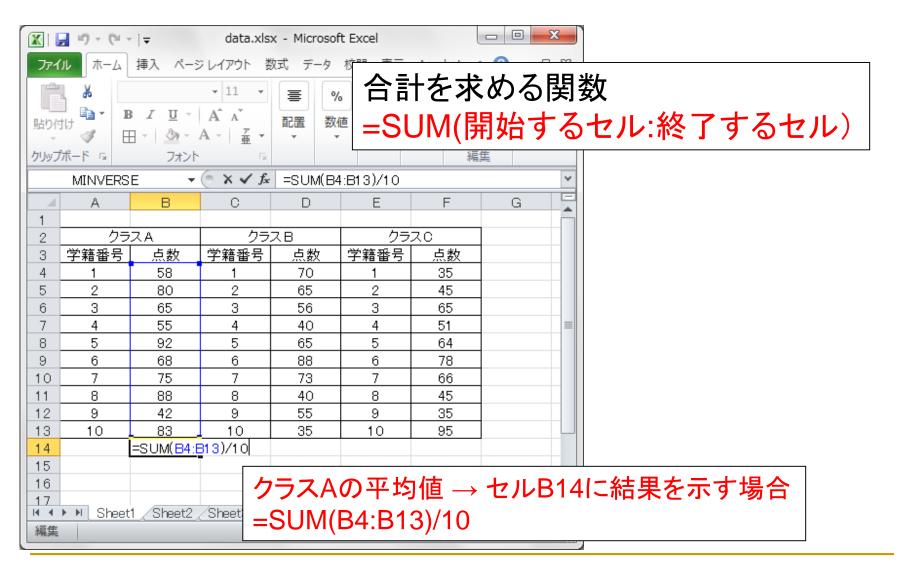
=F2\*F3-E3

=F2\*(F3-E3)

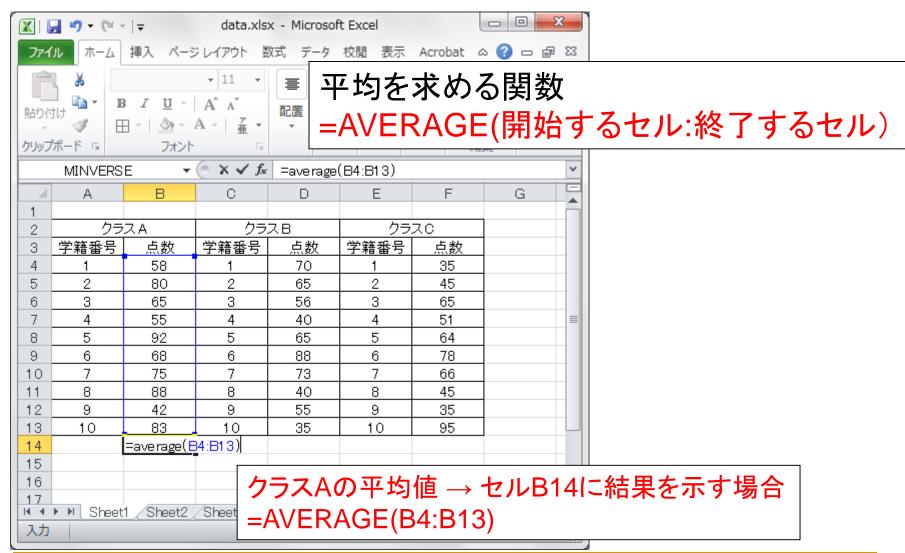
=F2\*F3/E3

- + 足し算
- 引き算
- \* 掛け算
- / 割り算
- ^ べき乗

### 平均値(相加平均)の求め方③



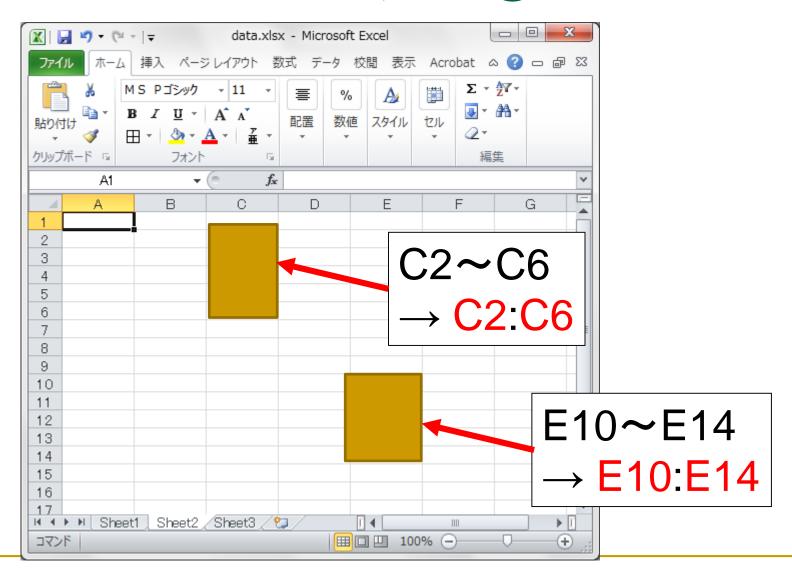
### 平均値(相加平均)の求め方④



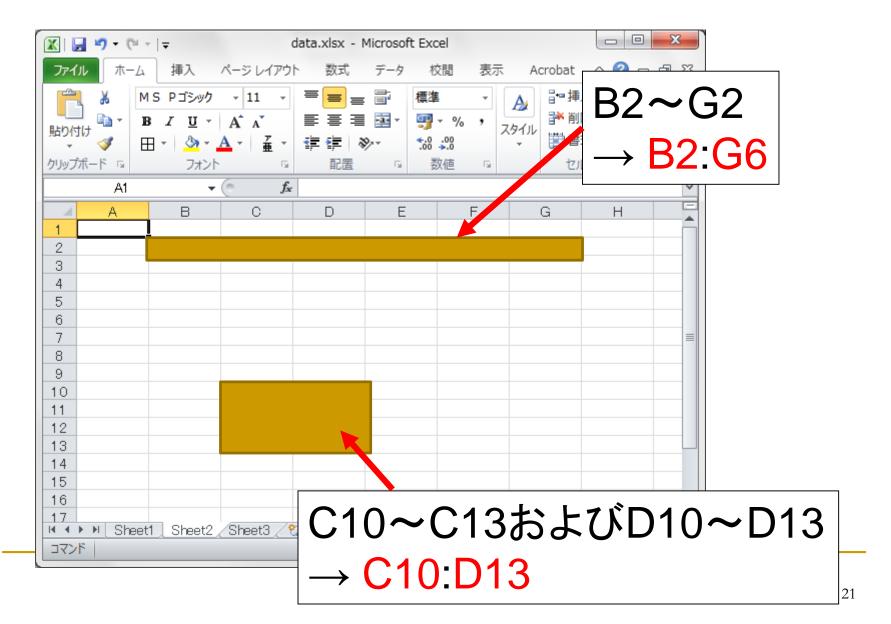
#### 関数によって合計を求める

- =SUM(開始するセル:終了するセル)
  - □列の場合
  - $\square = SUM(C2:C6)$
  - □ =C2+C3+C4+C5+C6 と同じ
  - □行の場合
  - $\square = SUM(B3:G3)$
  - □ =B3+C3+D3+E3+F3+G3 と同じ

### 連続するセルの表記①



### 連続するセルの表記②

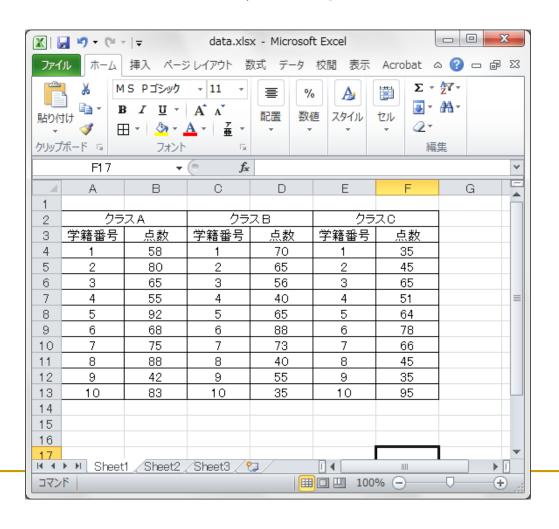


#### 関数によって平均値を求める

- =AVERAGE(開始するセル:終了するセル)
  - □列の場合
  - = =AVERAGE(B2:B6)
  - □ 行の場合
  - □ =AVERAGE(B2:G2)
  - =AVERAGE(B3:G3)

#### 平均値(相乗平均)の求め方①

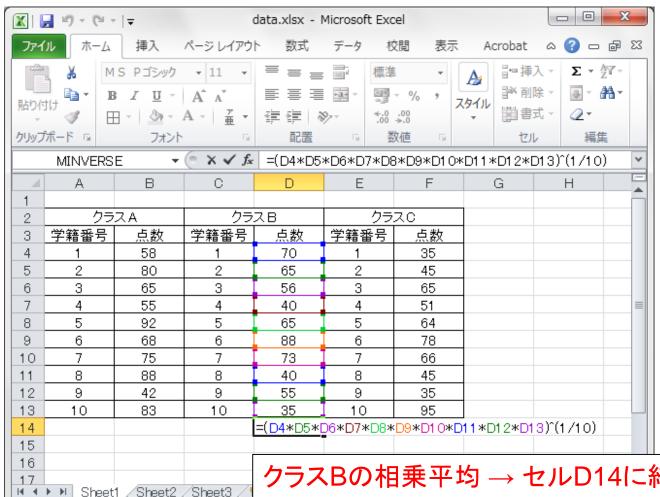
■ クラスBの点数の相乗平均を求める



#### 相乗平均

$$\overline{x} = \sqrt[n]{\prod_{i=1}^{n} x_i}$$

### 平均値(相乗平均)の求め方②

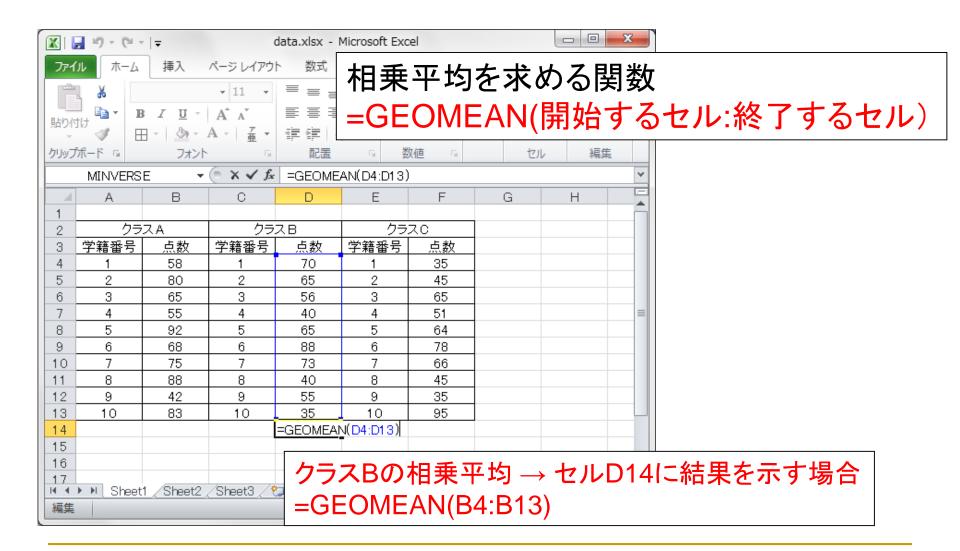


編集

$$\overline{x} = \sqrt{\prod_{i=1}^{n} x_i}$$

クラスBの相乗平均 → セルD14に結果を示す場合 =(D4\*D5\*D6\*D7\*D8\*D9\*D10\*D11\*D12\*D13)^(1/10)

#### 平均値(相乗平均)の求め方③

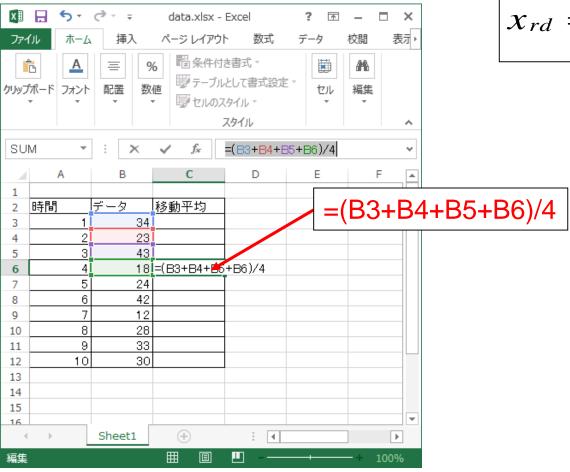


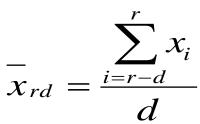
#### 平均値(相乗平均)の求め方④

- ■べき乗
  - $\Box = A3^2$
  - $\Box = A3^{(1/2)}$
- 相乗平均
  - $\Box = (A2*A3*A4)^{(1/3)}$
- 関数によって相乗平均を求める
  - =GEOMEAN(開始するセル:終了するセル)
  - =GEOMEAN(B4:B13)

### 移動平均の求め方①

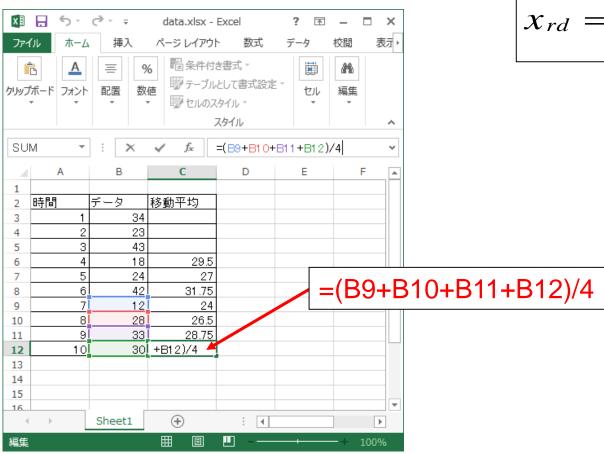
#### d=3(3期前から)の移動平均

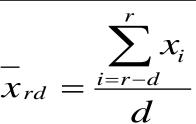




### 移動平均の求め方②

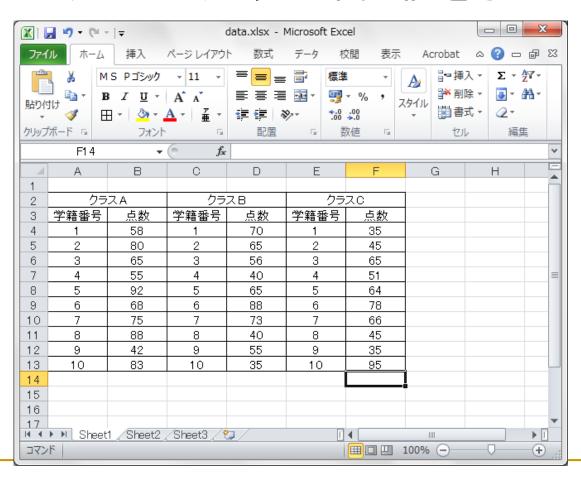
#### d=3(3期前から)の移動平均



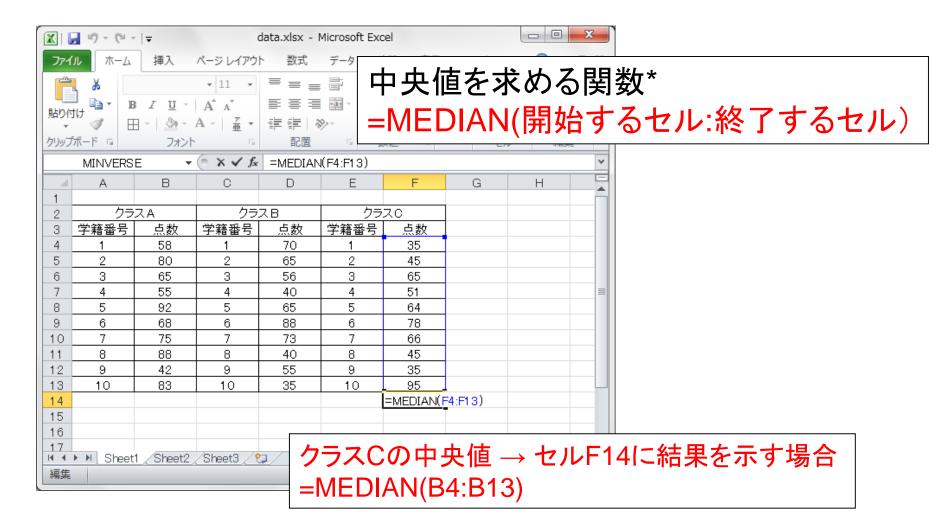


#### 中央値の求め方①

■ クラスCの点数の中央値を求める



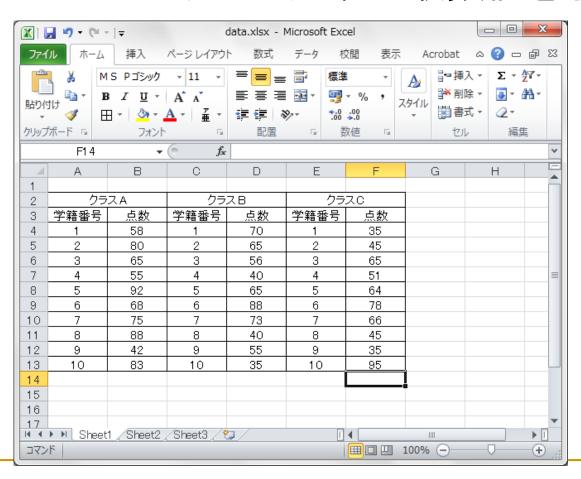
#### 中央値の求め方②



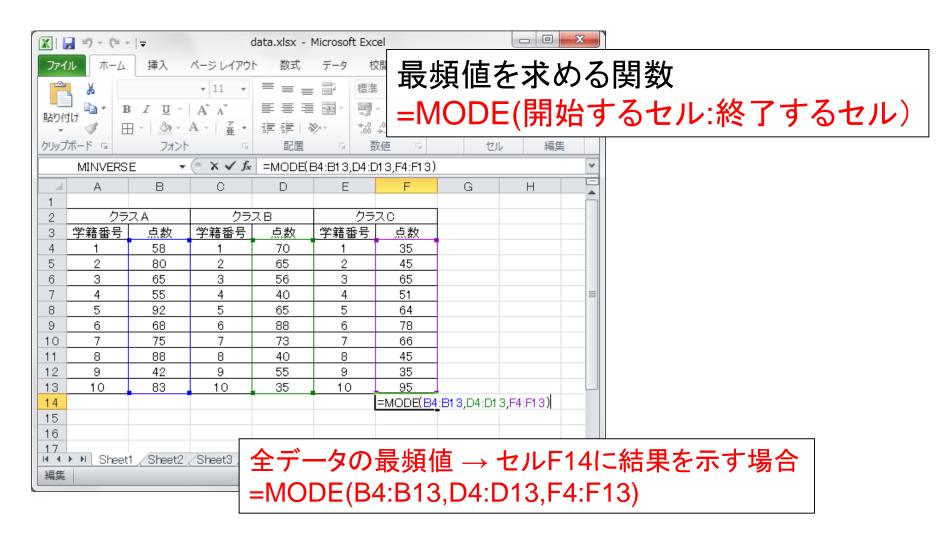
<sup>\*</sup>データ数が偶数個の場合,中央値は2個存在する.その場合,二つの値の平均値を中央値としている

#### 最頻値の求め方①

■ 全てのクラスの点数の最頻値を求める

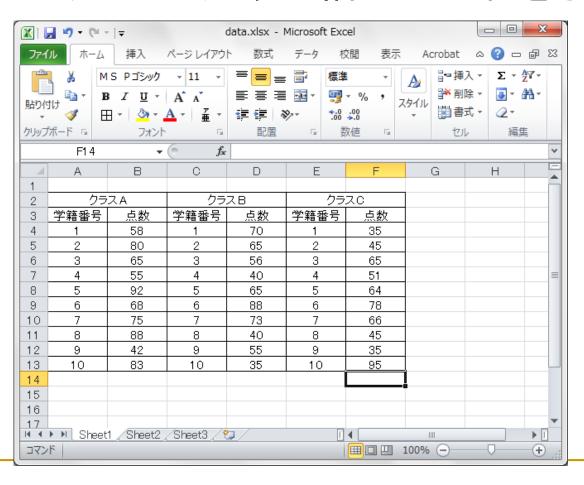


### 最頻値の求め方②



#### 偏差平方和の求め方①

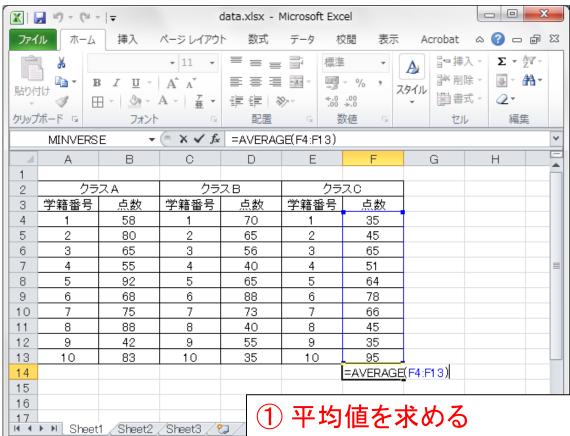
■ クラスCの点数の偏差平方和を求める



#### 偏差平方和

$$S = \sum_{i=1}^{n} (x_i - \overline{x})^2$$

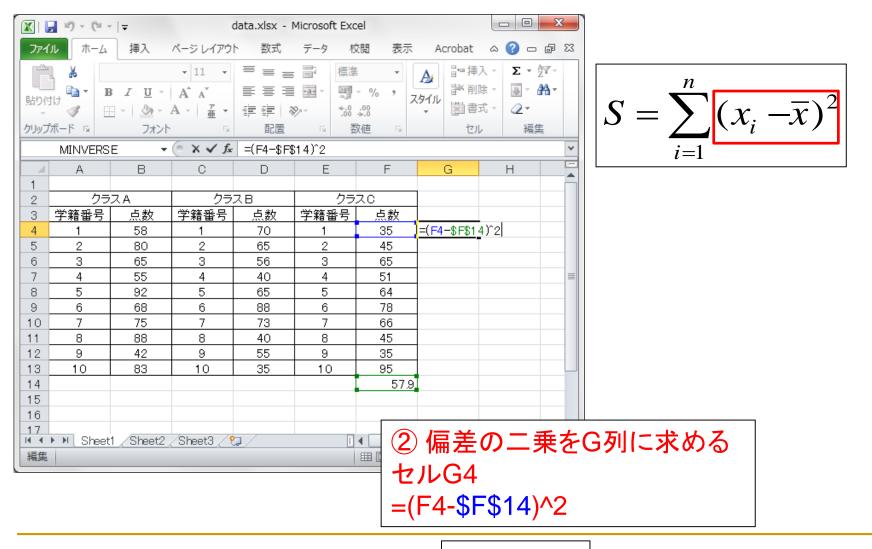
### 偏差平方和の求め方②



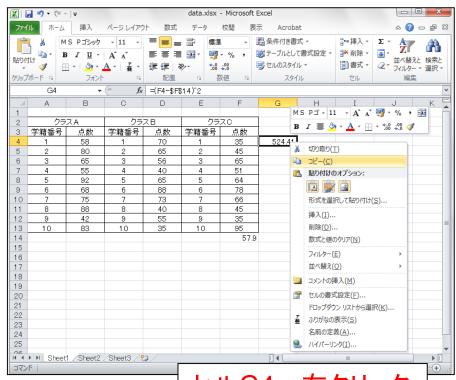
$$S = \sum_{i=1}^{n} (x_i - \overline{x})^2$$

① 平均値を求めるクラスCの平均値 → セルF14に結果を示す場合=AVERAGE(F4:F13)

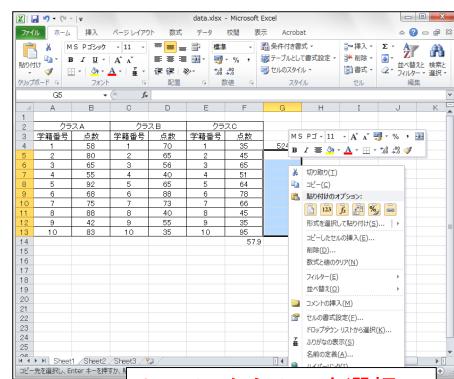
### 偏差平方和の求め方③



### 偏差平方和の求め方④

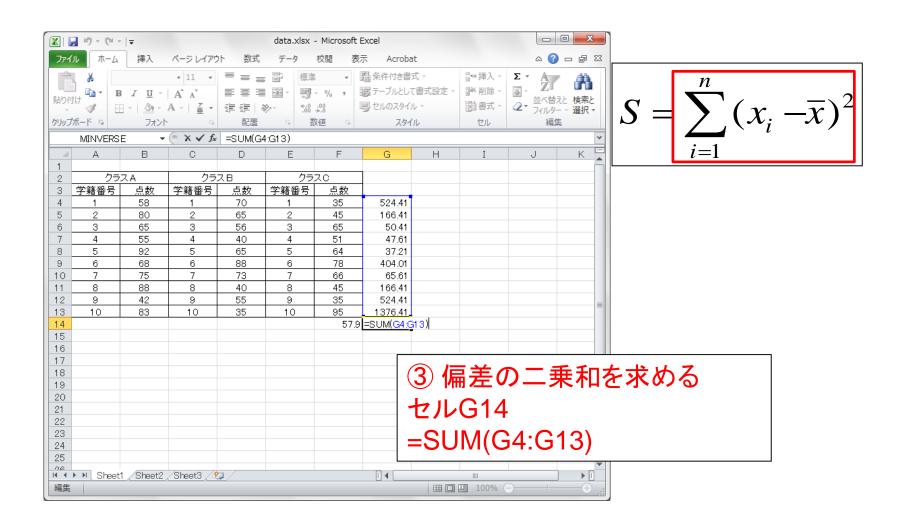


セルG4→右クリック →コピー

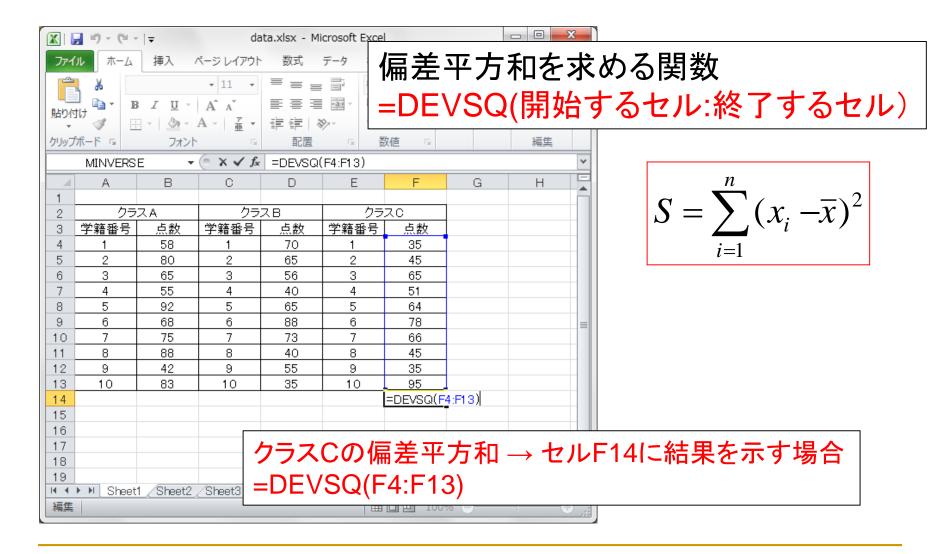


セルG5からG13を選択→ 右クリック→貼り付け

## 偏差平方和の求め方⑤



## 偏差平方和の求め方⑥



### 絶対参照と相対参照①

- 絶対参照
  - □ セル C2 において
  - □ =\$G\$2
  - □ セル G2 という絶対的な位置を示す

- ■相対参照
  - □ セル C2 において
  - $\Box = G2$
  - □ セル C2 から4つ右にあるセルを示す



## 絶対参照と相対参照②

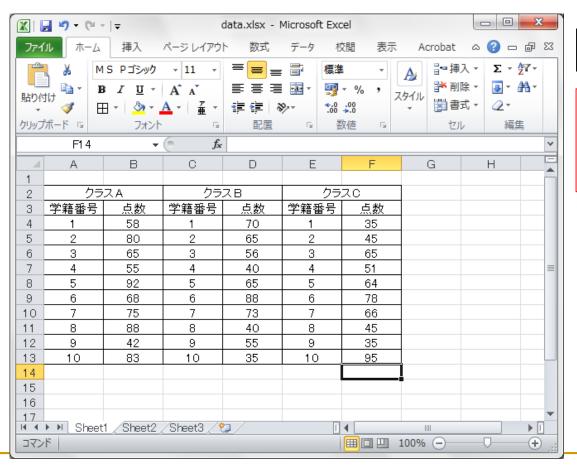
- ■絶対参照
  - □ セル C2 において
  - □ =\$E\$1
  - □ セル E1 という絶対的な位置を示す

- ■相対参照
  - □ セル C2 において
  - □ =E1
  - □ セル C2 から2つ右, 一つ上にある位置を示す



### 分散の求め方①

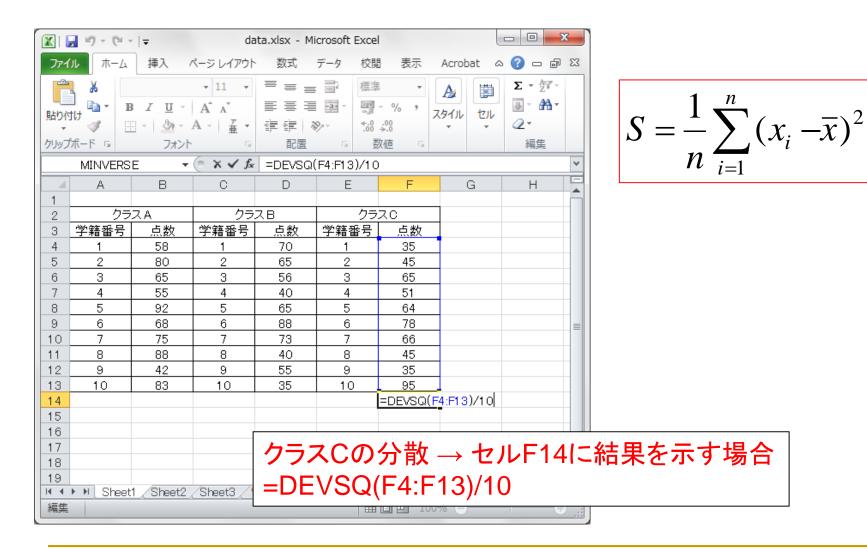
### クラスCの点数の分散を求める



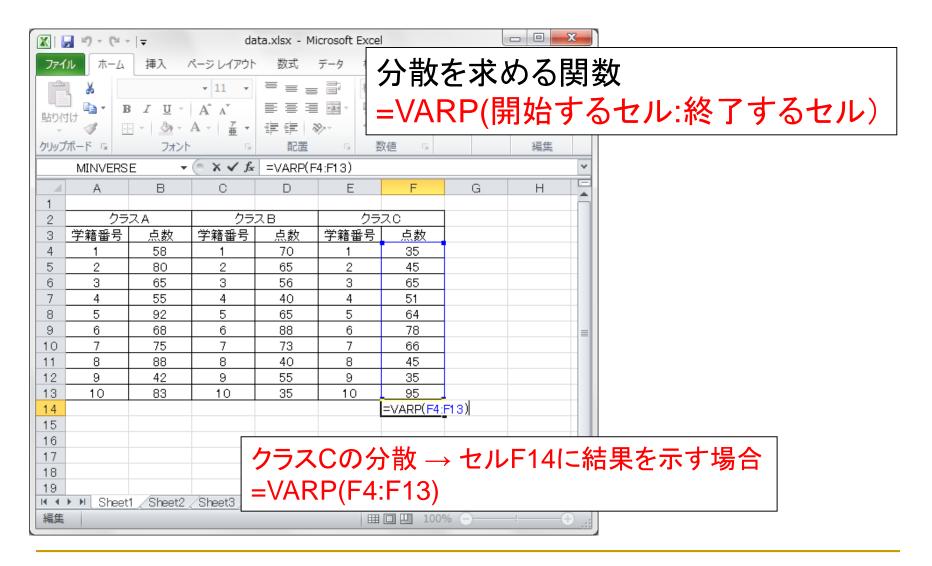
#### 分散

$$S = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^{n} (x_i - \bar{x})^2$$

### 分散の求め方②



## 分散の求め方③



### 分散と不偏分散

- 分散を求める場合
  - $\square = DEVSQ(F4:F13)/10$
  - $\square = VARP(F4:F13)$

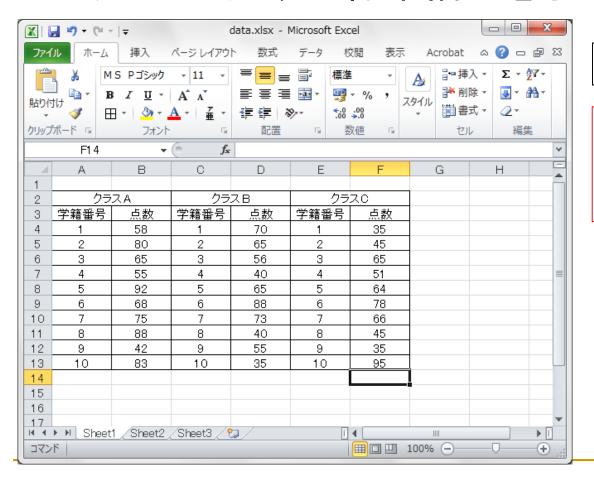
$$S = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^{n} (x_i - \overline{x})^2$$

- 不偏分散を求める場合
  - = DEVSQ(F4:F13)/9
  - $\square = VAR(F4:F13)$

$$S = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^{n} (x_i - \overline{x})^2$$

### 標準偏差の求め方①

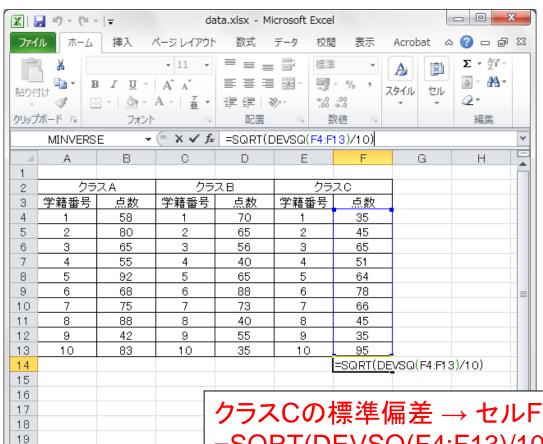
### ■ クラスCの点数の標準偏差を求める



#### 標準偏差

$$S = \sqrt{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^{n} (x_i - \bar{x})^2}$$

## 標準偏差の求め方②



★ ▶ ▶ Sheet1 Sheet2 Sheet3

編集

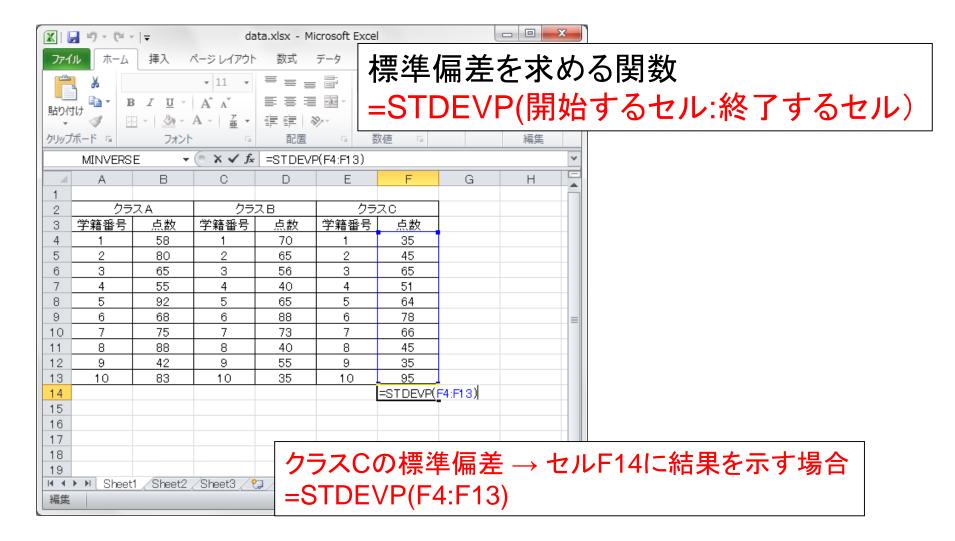
$$S = \sqrt{\frac{\sum_{i=1}^{n} (x_i - \overline{x})^2}{n}}$$

平方根を求める関数 SQRT

クラスCの標準偏差 → セルF14に結果を示す場合 = SQRT(DEVSQ(F4:F13)/10))

III III 100% -

### 標準偏差の求め方③



### 標準偏差と不偏標準偏差

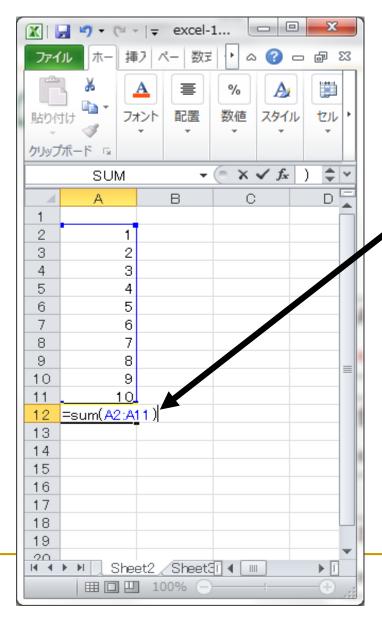
- 標準偏差を求める場合
  - $\square = SQRT(DEVSQ(F4:F13)/10)$
  - $\square = STDEVP(F4:F13)$

$$S = \sqrt{\frac{\sum_{i=1}^{n} (x_i - \overline{x})^2}{n}}$$

- 不偏標準偏差を求める場合
  - $\square = SQRT(DEVSQ(F4:F13)/9)$
  - =STDEV(F4:F13)

$$S = \sqrt{\frac{\sum_{i=1}^{n} (x_i - \overline{x})^2}{n-1}}$$

### 関数のまとめ①



A12 のセル

=SUM(A2:A11)

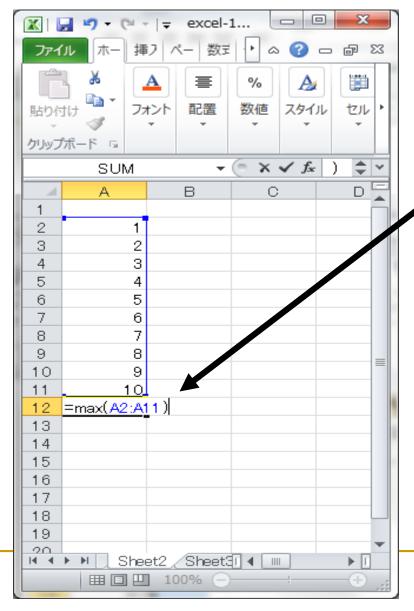
合計を求める関数

**=SUM(**開始セル:終了セル)

平均を求める関数

=AVERAGE(開始セル:終了セル)

# 関数のまとめ2



A12 のセル

=MAX(A2:A11)

最大値を求める関数

=MAX(開始セル:終了セル)

最小値を求める関数

**=MIN**(開始セル:終了セル)

### 関数のまとめ3

- 連続してセルを選択
  - $\square = SUM(A1:A6)$
  - $\square = SUM(A1:A6,B1:B6)$
- ■単独にセルを選択
  - $\square = SUM(A1,A2,A3,A4,A5,A6)$
  - $\square = SUM(A1,A2,A3,B1,B2,B3)$

## 関数のまとめ4

- □ 引数が一つ
- □ (例) SIN, COS

$$f(x_1, x_2, \cdots x_n)$$

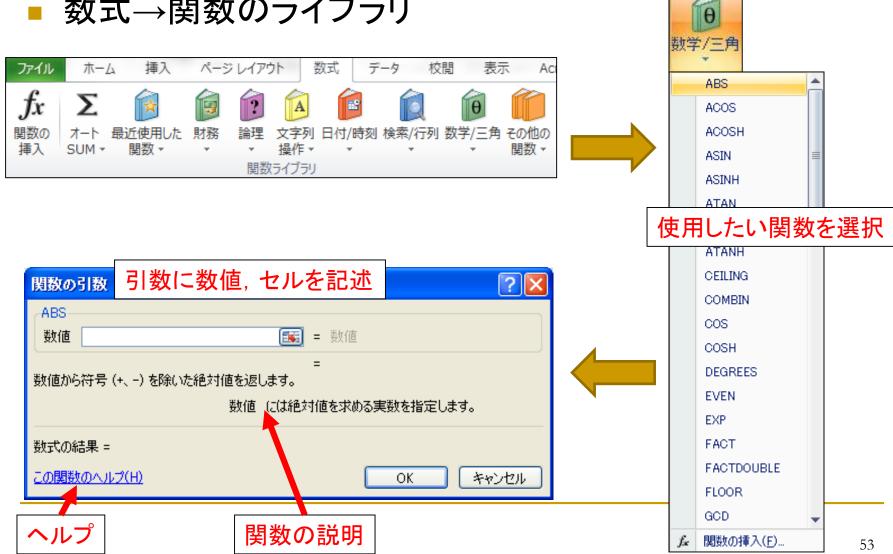
- □引数が複数
- □ (例) SUM, AVERAGE

#### 引数

数値でない場合もある

### 使いたい関数を知る方法(1)

数式→関数のライブラリ



# 使いたい関数を知る方法②

